

## 横山 久仁雄

〔市民連合〕

### 療養病床再編後の対応は

**問** 急速に進行する高齢社会に対応するために、2000年に介護保険制度が導入された。導入当初、政府は医療機関に療養病床の増設を求めて来た経過がある。しかし今日政府は、老人保険制度、そして医療制度改革という名のもとに、療養病床再編を計画している。内容は、4年後の23年には介護療養病床を全廃し、その1年後には医療療養病床を60%削減するものである。現在、特別養護老人ホーム、老人保健施設いずれも、入所希望者が多く利用困難な状態にある。この上、介護療養病床が全廃された時、現在の利用者が行き場を失う。この方々の受け皿はどの様になるのか。

**答** 介護療養病床が廃止されることに伴って、老健施設などに病床を転換できる。国は財政支援や設備基準の経過措

置がとられている。道は国の基本指針に基づき、「地域ケア整備構想」を策定する。本市としては、道が策定した基本指針を受けて、第4期介護保険事業計画に反映する。本市においては、保健所内に「富良野圏域地域ケア体制整備構想検討委員会」が設置される。その中で不足する介護基盤の整備が検討される。



老健施設の一コマ

**問** 介護療養病床の転換に伴い介護給付費の推計額が変わり、それに伴って、市民が納める介護保険料も当然変化すると見られる。介護保険料は、100歳の高齢者も保険料を負担する。本市の療養病床数の現状と、今後の見通しは。また、市民

の介護保険料負担はどの様に変わるのか。

**答** 現在本市の療養病床は、医療型が43床、介護型が40床、療養病床合計では83床となっている。圏域全体では医療型71床、介護型60床、合計131床である。どのように転換されるか現在それぞれの医療機関に道が意向調査中であり、その結果によって介護基盤が変わる。介護保険料については、月額で42円と253円の増額と考えている。

## 今 利 一

〔市民連合〕

### 変る農業・観光に どう対応

**問** 人間にとって、最も原始的であると共に普遍的でもある「農」への関心は低い。また、農業とあいまって進まなければならぬ「観光」もかげりが見えて来た。この二つの二大産業と車の両輪のごとく進める。これが市長の言う「農村観光都市形成」であると思うが、半年経過した今、

具体的な方向が見えてきていない。市が目指す姿は。

**答** 農業と観光、それぞれが新たな資源の開発を行うものでない。現存する資源を活用さらには、市民と同じ生活体験できる半住民としての滞在観光の環境を整える。

### 有機農業推進法 への対応は

**問** 昨年12月に施行した有機農業推進法。市は有機農業の推進をどの様に進めるのか。富良野でも進む「エコファーマー」への対応は。

**答** 有機農業の推進については、国や道の動向を踏まえ、

市内で有機農業に取り組み方々と意見交換を行い、新たな農業計画の策定の中で検討して行く。

### 子供達の食育は

**問** 色々な人が「食育」について語っているが、私自身「欧米化」した食生活、食事に警笛を鳴らしている。つまり、日本型食生活を取り戻す事こそが食育と考えるが、子供達の食育の考え方・食育の取り組み・家庭での食育・安全な食品を選ぶ教育について伺う。

**答** 食は健康の源であり、食生活は、健やかな心と身体の発達に最も重要。食育指針を策定するため取り組んでいる。今後については、モデル的に樹海中学校で、望ましい食習慣を实践。山部小においても実践。家庭での食育については、PTAと連携を図りながら調理実習に取り組む。安全な食品を選ぶ教育については、地域の農業の方や緑峰高校生に栽培指導や安全な食品の選び方の学習を実施している。



学校給食を楽しむ子供達

